

第68回日本小児保健協会学術集会 教育講演

ワクチン接種ためらいへの対応

岡田 賢 司 (福岡看護大学 / 福岡歯科大学医科歯科総合病院予防接種センター)

I. はじめに

ワクチンで防げる疾患はワクチンで防ぐとする VPD (vaccine preventable diseases) の考え方がある一方で、以前から予防接種に対して消極的あるいは否定的な態度や考え方を示す人々がいることも注目されてきた。このような態度・考え方を WHO は“Vaccine hesitancy”と呼び、“ワクチン忌避”、“ワクチン接種のためらい”などと訳されている。

WHO は「ワクチン接種の機会が提供されているにもかかわらず、ワクチンに対する受け入れの遅れや接種の拒否が認められる場合」と定義している。この態度・考え方は、ジェンナーが天然痘に対するワクチンである種痘を開発した200年以上前から存在していたとされている。

II. 世界の健康に対する10の脅威 (2019年) (図1)

2019年に取り組む多くの健康課題のうち、WHO は10課題を挙げているなかに、ワクチン忌避 (ワクチン接種へのためらい) を挙げている。

III. ワクチン接種へのためらいの多様性 (図2)

ワクチンに対する受け入れはさまざまで、受け入れなくても迷いがある場合もあれば、拒否しても、どこかに接種したほうがいいのかもかもしれないとの迷いもある場合もある。

IV. ワクチン接種に関連する3つの“C” (図3)

- ・ Complacency は、現状満足で VPD の被害を実感していない。
 - ・ Confidence は、ワクチンや接種者を信用できない、有害事象への危惧、効果への疑問。
 - ・ Convenience は、地理・時間・コストなど利便性の不足。
- があることを紹介した。

V. ワクチン接種へのためらいに向き合うためのコミュニケーションの方法

接種対象者や保護者がワクチン接種に躊躇している場合、より効果的な会話につなげるには、いくつかのステップがある (動機づけ対話法) (図4)。

2019年に取り組む多くの健康課題のうち、WHOは以下の10課題を挙げている



- 大気汚染と気候変動
- 非感染性疾患NCDs
- 世界的なインフルエンザ・パンデミック
- 脆弱な国の保健システムの強化
- 薬剤耐性AMR
- エボラや他の高脅威病原体
- 弱いプライマリヘルスケア
- ワクチン忌避*
- デング熱
- HIV



WHO: Ten threats to global health in 2019 より作成
<https://www.who.int/news-room/feature-stories/ten-threats-to-global-health-in-2019> (Accessed July 1, 2020)

図1 世界の健康に対する10の脅威 (2019年)

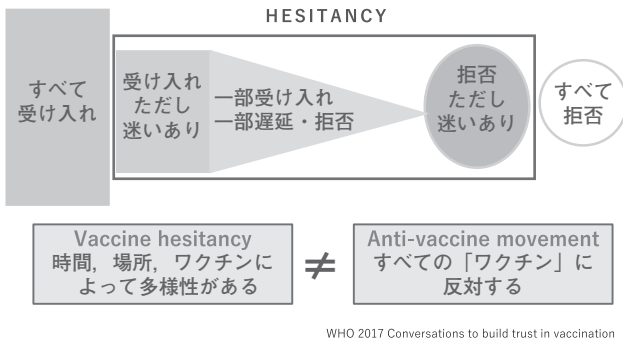


図2 Vaccine hesitancy の多様性

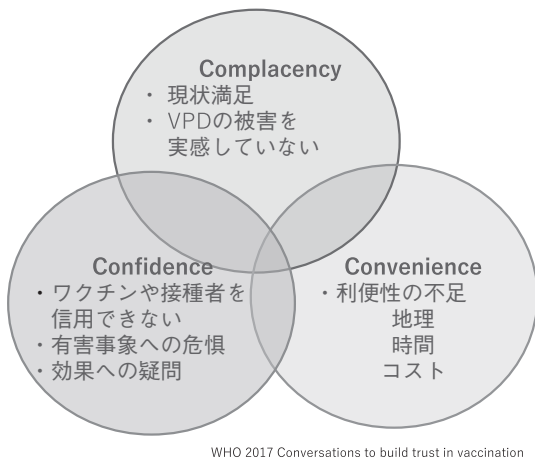


図3 Vaccine hesitancy に関連する要因：3C

- (1) 開かれた質問で問いかける (Open-ended questionで質問)。
- (2) 相手の言ったことを聞き返しながら対応する。
- (3) 相談者の良いところを認めて、重要なことを確認する。
- (4) “質問”—“提供”—“確認”。
- (5) 要約して、次の行動について説明する。

- (1) 開かれた質問では、「何が」、「なぜ」、「どのようにして」、「教えてください」などの言葉を用いて躊躇する理由を引き出す。
- (2) 聞き返しながら対応する：単純な聞き返しとしては、相談者の言葉をそのまま繰り返す。複雑な聞き返しとしては、相談者の言葉について、自分が感じたことを繰り返す。両方の聞き返し法を使って、相手の心配を受け止める。
- (3) 相談者の良いところを認めて (容認), 重要なことを確認する。
- (4) “質問”に関しては、具体的に「相談者にワクチンに関して、既にご存知のことを教えてください」などを紹介した。“提供”に関しては、例えば「あなたが話された内容を基に、いくつかの情報を提供してもいいですか?」。“確認”に関しては、共有した情報について、「相談者に今の時点で、どのようにしたいかをお聞かせください」。会話を進めて、どのような心配があるか特定する。接種対象者・保護者から提起されていない問題について触れることで、不安が増す可能性があるため、注意が必要であることも紹介した。
- (5) 要約して、次の行動について説明する。


- 1) やり取りを要約する。例えば、「ワクチン接種が大切な理由は・・・です。あなたにとって、このことが意味することは・・・です。覚えておいていただきたい大事な点は・・・です。」
- 2) 行動を決める (図5, 6)。
 接種に同意の場合：ワクチン接種をする。前向きな判断を是認して褒める。

予防接種とコミュニケーション方法

接種対象者や保護者がワクチン接種に躊躇している場合、より効果的な会話につなげるには、いくつかステップがある。

動機づけ対話法

- ① 開かれた質問で問いかける (Open-ended questionで質問)
- ② 相手の言ったことを聞き返しながら対応する
- ③ 相談者の良いところを認めて、重要なことを確認する
- ④ 質問 - 提供 - 確認
- ⑤ 要約して、次の行動について説明する



Conversations to build trust in vaccination より一部改題
https://www.who.int/immunization/programmes_systems/TrainingModule_ConversationsGuide_Final.pdf?ua=1 (Accessed July 1, 2020)

図4

予防接種とコミュニケーション方法

動機づけ対話法 5 要約して、次の行動について説明する

接種に同意の場合

ワクチン接種をする。
前向きな判断を是認して褒める。

話し合いの継続が可能な場合

接種対象者・保護者を専門家や地域の賛同者に紹介する。または次回の話し合いのための日程調整をする。

拒否の場合

言い争いはしない。
話し合いの余地は残す。

行動を決める

「もう少しワクチン接種について改めて考えてみる機会を設けましょう。いつこちらに來れそうですか？」

「わかりました。もし気持ちが変わって、ワクチン接種について話したくなったら、いつでも声をかけてください。」

Conversations to build trust in vaccination 20一部改訂
https://www.who.int/immunization/programmes_systems/TrainingModule_ConversationGuide_Final.pptx?ua=1 (Accessed July 1, 2020)

図 5


予防接種とコミュニケーション方法

動機づけ対話法 5 要約して、次の行動について説明する

保護者がワクチン接種を望まない場合、自身の判断について理解しているのか確認する。また、子ども（接種対象者）や自分自身の健康を守る責任について説明する。

今日はワクチン接種を受けないと了解しました。あなたには大事な責任があると理解しておいてください。つまり…

- 1 お子さんやあなたが病気になった時に、医療支援を受けなければなりません。
- 2 診察の時には、あなたやお子さんが定期接種になっているワクチンをすべて受けていないことを知らせなければなりません。
- 3 ワクチンで予防可能な疾患の徴候や症状について、学んでおかなければなりません。



Conversations to build trust in vaccination 20一部改訂
https://www.who.int/immunization/programmes_systems/TrainingModule_ConversationGuide_Final.pptx?ua=1 (Accessed July 1, 2020)

図 6

予防接種とコミュニケーション方法

動機づけ対話法 5 要約して、次の行動について説明する

推奨されること	注意事項	推奨されないこと
方向づけをするスタイルを取る。		指示的で理屈っぽい議論をする。
接種対象者・保護者と信頼関係を築く。		接種対象者・保護者のために問題を特定して解決しようとする。
ワクチンに対する心配や興味を引き出す。相談者の立場に立って考える。		相談者と議論や言い争いをする。
接種対象者・保護者が話していることについて聞き返す時間を設ける。		話を聞かずに、急いで終わらせる。

Conversations to build trust in vaccination 20一部改訂
https://www.who.int/immunization/programmes_systems/TrainingModule_ConversationGuide_Final.pptx?ua=1 (Accessed July 1, 2020)

図 7

話し合いの継続が可能な場合：接種対象者・保護者を専門家や地域の賛同者に紹介する。または次回の話し合いのための日程調整をする。「もう少しワクチン接種について改めて考えてみる機会を設けましょう。いつこちらに來れそうですか？」

拒否の場合：言い争いはしない。話し合いの余地

は残す。「わかりました。もし気持ちが変わって、ワクチン接種について話したくなったら、いつでも声をかけてください。」

3) 注意事項として、推奨されること、および推奨されないことを図7にまとめている。

(6) 動機づけ対話法のまとめ (図8)：

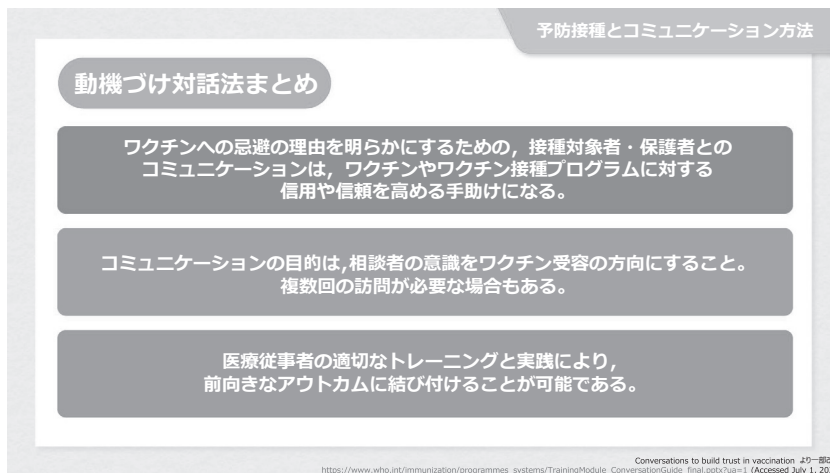


図 8

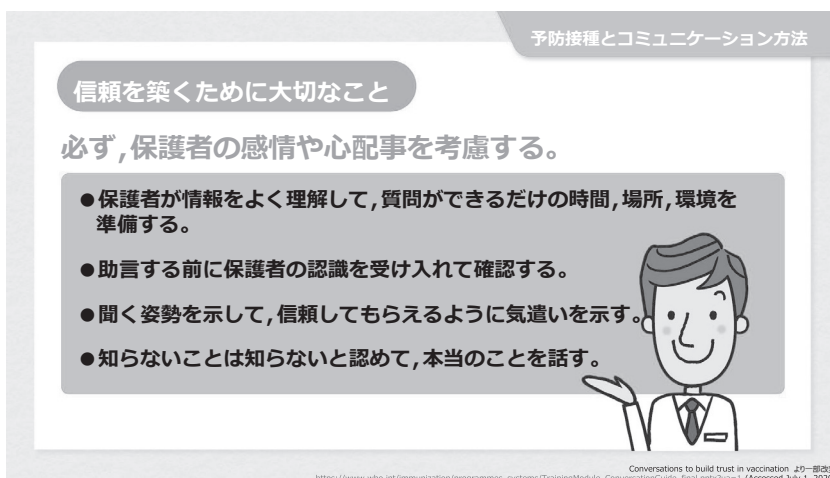


図 9

- ワクチン接種へのためらいの理由を明らかにするための、接種対象者・保護者とのコミュニケーションは、ワクチンやワクチン接種プログラムに対する信用や信頼を高める手助けになる。
- コミュニケーションの目的は、相談者の意識をワクチン受容の方向にすること。複数回の訪問が必要な場合もある。
- 医療従事者の適切なトレーニングと実践により、前向きなアウトカムに結び付けることが可能である。

VI. さ い ご に

信頼を築くためには、必ず、保護者の感情や心配事を考慮することが大切である (図 9)。

- 保護者が情報をよく理解して、質問ができるだけの時間、場所、環境を準備する。
- 助言する前に保護者の認識を受け入れて確認する。
- 聞く姿勢を示して、信頼してもらえるように気遣いを示す。
- 知らないことは知らないと認めて、本当のことを話す。

正確なエビデンスを用いて教育を受けた医療従事者が、単純にエビデンスを押し付けるのではなく、患者の心情に寄り添った説明を行うことが大切である。

*参考・引用文献は、図に記載。